



令和4年1月21日
一般社団法人家畜改良事業団

肉用牛の「生時体重ゲノミック評価技術」が実用化レベル

家畜改良事業団は日本中央競馬会の畜産振興事業として「肉用牛改良形質情報収集強化事業」を実施しています。本事業は令和3年度からの3カ年事業で、「生時体重から出荷までの体重に関する形質のゲノミック評価の正確度の向上を図るための情報強化を行い、畜産現場で活用できるレベルで実用化する。」ことが事業内容の1つとなっています。そのうち、「生時体重ゲノミック育種価」について、令和4年1月20日に、統計育種学やゲノム研究の専門家の参集を得て、遺伝的能力評価精度向上検討会を開催しました。検討会開催にあたり専務理事から「肉用牛の生時体重ゲノミック評価技術について、外部の専門家という第三者の立場で専門的・客観的に検証をおこなってもらいたい」との趣旨説明があり、専門委員により技術的検証が行われましたので、その結果をお知らせします。

検討会での検証の結果、当団が本事業で検証した「生時体重のゲノミック評価技術」について次のような評価が行われました。

- ① 種雄牛の遺伝的能力（ゲノミック育種価）を、評価するにあたってのリファレンスデータ数（生時体重の表現型約4万頭、SNP情報約11,000頭）およびその質は十分である。
- ② 今後も継続的にリファレンスデータ（SNP情報、生時体重の表現型、血統情報データ）を収集するシステム構築が進められており、安定した精度の高いゲノミック評価が行える体制にある。
- ③ 評価手法は妥当であり、枝肉形質同様に高い正確度が得られている。
- ④ なお、種雄牛の生時体重ゲノミック育種価を表示する場合は、現場への説明を丁寧に行い、さらに有効活用方法を検討して欲しい。

以上の評価を踏まえて、当団種雄牛の「生時体重ゲノミック育種価」の公表について検討することとします。

<本件に関するお問い合わせ先>
一般社団法人家畜改良事業団
東京都江東区冬木11-17 イマビル17F
担当部：改良部
黒木 一仁（くろぎ かずひと）
TEL：03-5621-8915
FAX：03-5621-8917
E-mail：kurogi@liaj.or.jp